殺菌消毒薬（特殊絆創膏を含む）

製品群No. 54

資料4－33

リスクの程度の評価		A 薬理作用	B 相互作用		C 重篤な副作用のおそれ		C' 重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ		D 濫用のおそれ	E 患者背景（既往歴、治療状況等）（重篤な副作用につながるおそれ）		F 効能・効果（症状の悪化につながるおそれ）		G 使用方法（誤使用のおそれ）			H スイッチ化等に伴う使用環境の変化		
評価の視点		薬理作用	相互作用		重篤な副作用のおそれ		重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ		薬理に基づく習慣性	適応禁忌	慎重投与（投与により障害の再発・悪化のおそれ）	症状の悪化につながるおそれ	適応対象の症状の判別に注意を要する（適応を誤るおそれ）	使用方法（誤使用のおそれ）			スイッチ化等に伴う使用環境の変化	用法用量	効能効果
			併用禁忌（他剤との併用により重大な問題が発生するおそれ）	併用注意	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの						使用量に上限があるもの	過量使用・誤使用のおそれ	長期使用による健康被害のおそれ			
															心血管系の症状：血圧低下、徐脈、心筋収縮力低下、心拍出量低下、刺激伝導系の抑制、心室性頻脈及び心室細動等の心室性不整脈、循環虚脱、心停止等があらわれる。			膀胱鏡検査、尿管カテーテル挿入、逆行性腎盂撮影法、凝血除去、結石処置、経尿道式尿道乳頭腫剔除等の場合4%液を倍量に希釈し、その約10mL（塩酸リドカインとして200mg）を尿道内に注入し、男子では陰茎を指搾子ではさみ、女子には綿栓を施して5～10分間、液を尿道内に貯留させる。 気管支鏡検査 全身麻酔時の挿管には本剤を倍量に希釈し、その適量（10mL（塩酸リドカインとして200mg）以内）を噴霧する。 幼児（特に3歳以下）：低用量から投与を開始（麻酔効果の把握が困難なため高用量又は頻回投与されやすい）	

殺菌消毒薬（特殊絆創膏を含む）

製品群No. 54

資料4－33

リスクの程度の評価		A 薬理作用	B 相互作用		C 重篤な副作用のおそれ		C' 重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ		D 濫用のおそれ	E 患者背景（既往歴、治療状況等）（重篤な副作用につながるおそれ）		F 効能・効果（症状の悪化につながるおそれ）		G 使用方法（誤使用のおそれ）			H スイッチ化等に伴う使用環境の変化		
評価の視点		薬理作用	相互作用		重篤な副作用のおそれ		重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ		薬理に基づく習慣性	適応禁忌	慎重投与（投与により障害の再発・悪化のおそれ）	症状の悪化につながるおそれ	適応対象の症状の判別に注意を要する（適応を誤るおそれ）	使用方法（誤使用のおそれ）			スイッチ化等に伴う使用環境の変化	用法用量	効能効果
			併用禁忌（他剤との併用により重大な問題が発生するおそれ）	併用注意	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの						使用量に上限があるもの	過量使用・誤使用のおそれ	長期使用による健康被害のおそれ			
リドカイン	キシロカインポンプスプレー 噴霧剤	作用機序 リドカインは、神経膜のナトリウムチャネルをブロックし、神経における活動電位の伝導を可逆的に抑制し、知覚神経・運動神経を遮断する局所麻酔薬であ 麻酔効果・作用時間 塩酸リドカインの表面・浸潤・伝達麻酔効果は、塩酸プロカインよりも強く、作用持続時間は塩酸プロカインよりも長い			意識障害、振戦、痙攣（頻度不明）	ショック（頻度不明）	頻度不明 （眠気、不安、興奮、霧視、眩暈、悪心・嘔吐）	頻度不明（過敏症）		本剤の成分又はアニリド系局所麻酔薬に対し過敏症の既往歴	高齢者又は全身状態が不良 心刺激伝導障害 重症の肝機能障害又は腎機能障害 幼児（特に3歳以下） 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人 扁桃炎で充血している場合			一時に25回（リドカインとして200mg）以上の噴霧は避けること	必要最少量 他のリドカイン製剤と併用する場合には、総リドカイン量を考慮 眼科用として使用しない。気管内チューブには噴霧しない。 過量投与：中枢神経系および心血管系の症状の発現			リドカインとして、通常成人では8～40mg（1～5回の噴霧）を使用する。 なお、年齢、麻酔領域、部位、組織、体質により適宜増減する。 〈使用方法〉 添付のノズルを装着し、ノズル内に溶液が充満するよう、患部に噴霧する前に火気に注意して、少なくとも5回空噴霧した後に麻酔部位に噴霧する。麻酔部位に噴霧する際には溶液が霧状となるようノズルを強く押すこと。 ノズルを1回押すごとに溶液0.1mL（リドカインとして8mg含有）が噴霧される。通常1～5回の噴霧（溶液0.1～0.5mL：リドカインとして8～40mg）で十分である。広範な部位を麻酔する場合及び麻酔効果をさらに長時間持続させる場合には、噴霧回数を適宜調節する。ただし一時に25回（リドカインとして200mg）以上の噴霧は避けること。 小児に使用する場合や、扁桃炎等で充血している場合には十分注意して使用すること。 残液量が少なくなった場合はチューブの先端が下側になるようにして使用すること。	表面麻酔

殺菌消毒薬（特殊絆創膏を含む）

製品群No. 54

資料4－33

	リスクの程度の評価		A 薬理作用	B 相互作用		C 重篤な副作用のおそれ		C' 重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ		D 濫用のおそれ	E 患者背景（既往歴、治療状況等）（重篤な副作用につながるおそれ）		F 効能・効果（症状の悪化につながるおそれ）		G 使用方法（誤使用のおそれ）			H スイッチ化等に伴う使用環境の変化		
	評価の視点		薬理作用	相互作用		重篤な副作用のおそれ		重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ		薬理に基づく習慣性	適応禁忌	慎重投与（投与により障害の再発・悪化のおそれ）	症状の悪化につながるおそれ	適応対象の症状の判別に注意を要する（適応を誤るおそれ）	使用方法（誤使用のおそれ）			スイッチ化等に伴う使用環境の変化	用法用量	効能効果
				併用禁忌（他剤との併用により重大な問題が発生するおそれ）	併用注意	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの						使用量に上限があるもの	過量使用・誤使用のおそれ	長期使用による健康被害のおそれ			
血管収縮成分	塩酸ナファゾリン	0.05%プリビナ液「チバ」 塩酸ナファゾリンの配合剤しかなかったため、硝酸ナファゾリンの点鼻薬を用いた 後発品なし	血管平滑筋のα-アドレナリン受容体に直接作用して血管を収縮させる。 アドレナリンより強い末梢血管収縮作用を有し、作用持続時間も長い（ウサギ耳殻血管）。	MAO阻害薬（急激な血圧上昇）				・頻度不明（眠気等の鎮静作用（特に小児）、神経過敏、頭痛、めまい、不眠症、血圧上昇、悪心・嘔吐、熱感、刺激痛、乾燥感、嗅覚消失、反応性充血、長期投与で顆粒球減少・反応性の低下）	頻度不明（過敏症）		本剤の成分に対し過敏症の既往歴 2歳未満の乳・幼児（ショック） MAO阻害剤の投与を受けている（急激な血圧上昇）	冠動脈疾患、高血圧症、甲状腺機能亢進症、糖尿病、交感神経作用薬による不眠・めまいなどの既往、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人、小児	連用又は頻回使用により反応性の低下や局所粘膜の二次充血を起こすことあるので、急性充血期に限って使用するか又は適切な休薬期間をおいて使用すること。			眼科用として使用しないこと。 過量投与により、主な全身作用として、血圧上昇と二次作用として臓器虚血がみられる。 幼・小児では過量投与により、顕著な鎮静があらわれ、発汗、徐脈、昏睡等の全身症状があらわれやすい。連用・頻回投与により顆粒球減少、反応性の低下、局所粘膜の二次充血を起こすことがある。	連用・頻回投与により顆粒球減少、反応性の低下、局所粘膜の二次充血を起こすことがある。		通常、成人鼻腔内には、1回2～4滴を1日数回、咽頭・喉頭には1回1～2mLを1日数回塗布又は噴霧する。なお、年齢、症状により適宜増減する。 局所麻酔剤への添加には、局所麻酔剤1mLあたり0.05%液2～4滴の割合で添加する。	上気道の諸疾患の充血・うっ血 上気道粘膜の表面麻酔時における局所麻酔剤の効力持続時間の延長